



KANAIWA ONO
ART PROJECT

金石スタジオ 通信

11

金沢21世紀美術館が進めている金石大野芸術計画(Kanaiwa Ono Art Project)の活動の拠点となっている金石スタジオ(金石西2丁目17-23)から、毎月みなさまに、最新情報をお届けするニュースレターです。

AIR
アーティスト・
イン・レジデンス

田口行弘&

キアラ・チツカレツロ

8月23日〜11月中旬滞在



「インタビュー(2) ゴミと漂着物」

八月から十一月まで、金石海岸で「Discuvy in Kanaiwa」というプロジェクトを行った

お二人にお話を伺いました。
——九月から台風が二度来ましたが、小屋は大丈夫でしたか？

田口(以下、田)：九月の最初の台風で窓が全部割れて、地元のガラス屋さん注文して全部変えました。そうではなくても雨が横から降ってくる感じだから、窓から水が入ってきます。二度目の台風前には、家をロープで地面に縛り付けました。そうしないと横に倒れたりずれたりするかもしれないので。

——金石海岸に落ちていたペットボトルを素材にして防風壁を作っていますね。集めながら作っているんですか？

田：ある程度集めたら壁を作るといいうのを繰り返しています。堤防の向こう側に大量に溜まっている所があって、僕らがちょっと集めたくらいでは全く減らないですね。まずペットボトルを洗って、底を切ってロープを通して積んで

いくと柱になる。それを並べて横に支えを入れると壁になるんです。軽く風を抑えたり、空間を仕切るためには有効です。インドとかアジアの人がネットにあげていた方法なのですが、調べた中では一番綺麗に見えるものでした。



——田口さんたちは、ベルリンのクブリー地区では近隣で出た廃材を使って小屋を作り、金石では海岸で拾ったペットボトルで防風壁を作っ

ています。ペットボトルは現在の金石海岸ならではの素材とも言えますよね。

田：この家はベルリンのクブリーで出た廃材や収集した物でできていて、金石の海岸にあるのは、どこからか流れてきた物。どちらも人間が出した物ではありませんね。ただペットボトルは「金石らしい」という次元ではなくて、日本とかアジアとか、世界の海洋ゴミのシンボルになりつつあると思います。海の中に沈んでいたりする分まで考えると、全体としてはすごいことになっている。その冰山の一角が金石で見られるっていう状態だと思うんですよ。クブリーでやっていた時も、



最終的に一五〇人以上住み始めた時に出てきたのがゴミの問題。きちんと処理する人とならない人の差があって、しない人は本当にひどい。必然的にネズミが増えて、近隣の問題にまで発展しました。それもクブリーだけの問題というよりは、世界の縮図なんだろうと思います。例えば一〇〇人の住人のうち七〇人くらいが掃除しない人だったとすると、世界全体でもいまだに七割はゴミに対して無関心なんだろうなと想像できる。

——きりなくあるゴミを集めていると、無力感を感じたりしますか？

田：浜をきれいにしようとするのが無力感が出てくるけど、クブリーハウスで僕らが滞在してみんなで集まる場を作ることには軸があって、その素材集めと考えているので、モチベーションはあります。

一ヶ月経って、一日一回はひよこつと訪問者が来るようになって、このプロジェクトっぽくなってきたかなと思います。「金石海岸にアクセスントをつけてくれて、生きてよかった」とか言ってくれてるおじさんもいたし。あと半年くらい続いたら、「あの小



11月4日コンテナの前にて

「小屋」で通じる目印くらいにはなりそうですよ。

——小屋を解体した後の予定を教えてください。

田：解体した後資材をコンテナに収め、四月までにはドイツに到着するように輸送する予定です。ドイツのルール地方に人工の湖があるのですが、来年の五月からその湖畔で行われる芸術祭のためにまたこの小屋を建てます。野外の美術館という雰囲気、金石海岸とはまた違う感じです。

——海岸の次は湖畔、楽しみです！

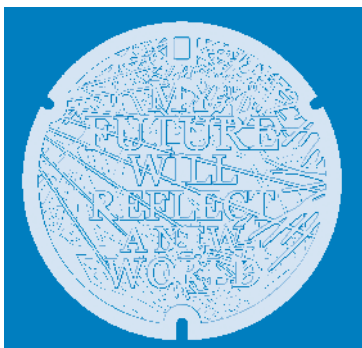
——ありがとうございます！

(聞き手：池田あゆみ／二〇一九年十月十五日スタジオにて)

ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ

今冬滞在予定

ムン&チョンが金石のためにデザインしたオリジナルのマンホール蓋がついに完成。年内に町内各所に設置予定です。乞ご期待！



マンホールのデザイン

PP
パブリック・プログラム

にわ部

★ポットラックパーティー

11月16日(土) 10時〜13時頃

12月14日(土) 10時〜13時頃

※参加費無料

※予約不要

収穫したものと情報交換の場としてのポットラックパーティー(一品持ち寄りのご飯会)を月一回程度開催しています。

★トークセッション：新居幸治 (Eatable of Many Orders)

11月16日(土) 16時半〜18時

※参加費無料

※定員50名(予約不要、先着順)

二〇一七年、熱海を拠点にブランド活動をスタートし、素材と製法へのあくなき探求と、「着る(衣)」と「食べる(食)」のつながりへの興味を推進力に、独自の世界観をもつ革製品や洋服を生み出しつづけている「Eatable of Many Orders (エタブルオブメニオーダーズ)」。そのデザイナーの新居幸治さんに、今いちばん関心のあること「養蜂」に焦点をあて、素材としての「蜜」、それをつくりだす「養蜂」というシステムについて、これまでの自身の体験やリサーチから、今後のクリエーションのアイデアに至るまで、存分に語っていただきます。



「レポート」 はま部

★漂着物で何釣れる？浜どれーグッドラックパーティー

はまの漂着物を使って魚を釣って食べよう！というプログラム。当日は無念の小雨模様でしたが、スタジオには続々と人が集まり、久しぶりのルアー釣りを狙う人、初めて親子で釣りに来た人など。せっかくなのでスタジオで漂着物の仕掛け作りを楽しんで、雨の合間に砂浜に出かけました。結果は小フグが一匹にカニが二匹！かわいい彼らは海に返してやり、その後は差し入れのおにぎりや、にわで採れたツルムラサキの味噌汁を味わいながら、次の釣果を夢見たのでした。

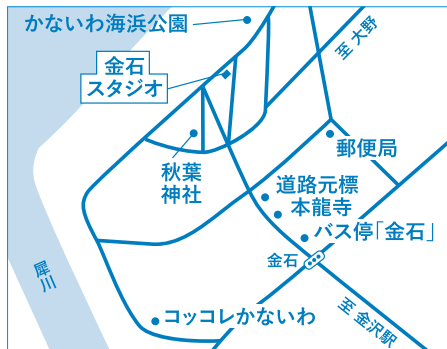
実施日：9月21日(土) 7時〜13時



カニが採れるかな？



小さなフグがかかったよ！



金石スタジオ

金石西2丁目17-23

バス停「金石」から歩いて5分、海岸通り沿いです。公共交通機関や徒歩、自転車などをご利用ください。

スタッフ常駐は、毎週土曜の15時〜18時です。